



# 優良住宅部品認定基準

Certification Standards for Quality Housing Components

ガレージ

Garage

BLS GA:2015②

2016年1月15日公表・施行

一般財団法人 **ニッポンリビング**



# 目 次

## 優良住宅部品認定基準 ガレージ

### I. 総則

1. 適用範囲
2. 用語の定義
3. 部品の構成
4. 材料
5. 施工の範囲
6. 寸法

### II. 要求性能

- 1 住宅部品の性能等に係る要求事項
  - 1.1 機能の確保
  - 1.2 安全性の確保
    - 1.2.1 機械的な抵抗力及び安定性の確保
    - 1.2.2 使用時の安全性及び保安性の確保
    - (1.2.3 健康上の安全性の確保)
    - 1.2.4 火災に対する安全性の確保
  - 1.3 耐久性の確保
  - 1.4 環境に対する配慮（この要求事項は、必須要求事項ではなく任意選択事項である）
    - 1.4.1 製造場の活動における環境配慮
    - 1.4.2 ガレージのライフサイクルの各段階における環境配慮
      - 1.4.2.1 材料の調達時等における環境配慮
      - 1.4.2.2 製造・流通時における環境配慮
      - 1.4.2.3 施工時における環境配慮
      - 1.4.2.4 使用時における環境配慮
      - 1.4.2.5 更新・取外し時における環境配慮
      - 1.4.2.6 処理・処分時における環境配慮
- 2 供給者の供給体制等に係る要求事項
  - 2.1 適切な品質管理の実施
  - 2.2 適切な供給体制及び維持管理体制等の確保
    - 2.2.1 適切な品質保証の実施
    - 2.2.2 確実な供給体制の確保
    - 2.2.3 適切な維持管理への配慮
      - 2.2.3.1 維持管理のしやすさへの配慮
      - 2.2.3.2 補修及び取替えへの配慮
    - 2.2.4 確実な維持管理体制の整備
      - 2.2.4.1 相談窓口の整備
      - 2.2.4.2 維持管理の体制の構築等
      - 2.2.4.3 維持管理の実施状況に係る情報の管理
  - 2.3 適切な製品選択方法及び基礎設計方法の設定
  - 2.4 適切な施工の担保
    - 2.4.1 適切なインターフェイスの設定
    - 2.4.2 適切な施工方法・納まり等の確保
- 3 情報の提供に係る要求事項
  - 3.1 基本性能に関する情報提供
  - 3.2 使用に関する情報提供
  - 3.3 維持管理に関する情報提供
  - 3.4 施工に関する情報提供

### III. 附則



# 優良住宅部品認定基準

## ガレージ

### I. 総則

#### 1. 適用範囲

居住者の用に供する自動車その他の自動車を収容する、床面積の合計が 100m<sup>2</sup> 以内の鋼板構造による平屋のガレージで、屋外に独立して設置するものに適用する。

#### 2. 用語の定義

- a) 戸：自動車や人が出入りする開口部に使用する部品（シャッターを含む）の総称をいう。
- b) 取替えパーツ：将来的に交換が可能な構成部品若しくはその部分又は代替品をいう。
- c) インターフェイス：他の住宅部品、住宅の躯体等との取り合いをいう。
- d) 連続型：複数のガレージを、間口方向に連続して設置したものをいう。
- e) S 1 2 0 0 型（一般地型）：1 年を通じて、あまり雪が降らない一般地で、雪が残らない地域を想定した、積雪荷重値 1200N/m<sup>2</sup> に対して安全を確認したものの。
- f) S 3 0 0 0 型（多雪地型）：比較的雪が多く降る地域で、冬季には根雪が残る多雪地域を想定した、積雪荷重値 3000N/m<sup>2</sup> に対して安全を確認したものの。
- g) S 4 5 0 0 型（豪雪地型）：雪が多く降る地域で、根雪が残る豪雪地域を想定した、積雪荷重値 4500N/m<sup>2</sup> に対して安全を確認したものの。
- h) W 8 3 0 型：基準風速 34 m/s、地表面粗度区分Ⅲを想定した、風圧力 830 N/m<sup>2</sup> に対して安全を確認したものの。
- i) W 1 0 4 0 型：基準風速 38 m/s、地表面粗度区分Ⅲを想定した、風圧力 1040 N/m<sup>2</sup> に対して安全を確認したものの。
- j) W 1 2 7 0 型：基準風速 42 m/s、地表面粗度区分Ⅲを想定した、風圧力 1270 N/m<sup>2</sup> に対して安全を確認したものの。

### 3. 部品の構成

標準的な構成部品は表－1による。

表－1 構成部品

		構成部品名	構成の別 注)	備考
主要部材	基礎部材	アンカー	○	
	小屋組部材	屋根	●	
		けた(桁)	●	
		はり(梁)	●	
	壁回り部材	壁	●	
		戸(シャッターを含む)	●	自動車の出入口用
		戸	△	人の出入り口用
		戸の補強材	△	ユーザーが強風時に取り付けるシャッターの補強のための部品
		柱	●	
		土台	●	
	備品	施錠機構	●	
		棚板	△	
		棚受	△	
		換気ガラリ	●	又は換気用小窓
強制換気装置		○		
鼻隠し		△		
側板		△		
車止め		△		
カーブミラー		△		
屋根用結露防止材		△		
接合金物		●		
照明器具		△		
雨どい(横樋)		●		
雨どい(縦樋)	△			

注) 構成の別

- : (必須構成部品) 住宅部品としての基本機能上、必ず装備されていなければならない部品及び部材を示す。
- : (セットフリー部品) 必須構成部品のうち、販売上必ずしもセットしなくてもよい部品及び部材を示す。
- △ : (選択構成部品) 必須構成部品に選択的に付加することができるもので、必ずしも保有しなくてもよい部品及び部材を示す。

### 4. 材料

必須構成部品及び選択構成部品に使用する材料は、名称及び該当する JIS 等の規格名称を明確化したもの、又は、JIS 等と同等の性能を有していることを証明したものを対象とする。

### 5. 施工の範囲

構成部品の施工範囲は、原則として次による。ただし、土間コンクリート等については施工範囲対象外とする。

- a) 基礎とアンカー等の緊結
- b) ガレージの組立・据付

## 6. 寸法

ガレージの製作寸法公差は、間口、奥行及び高さの外形寸法に対して±5mm のものを対象とする。ただし、連続型については、連続方向は除く。また、シャッターの製作寸法公差は、JIS A 4704:2015（軽量シャッター）による。

## II. 要求事項

### 1 住宅部品の性能等に係る要求事項

#### 1.1 機能の確保

- a) 防水、排水、雨仕舞が確保されていること。
- b) 自動車の出し入れや人の出入りに障害となるものがなく、収容する自動車に適した寸法で容積が十分であること。
- c) 換気が行えること。
- d) 戸は円滑に開閉できること。
- e) シャッター並びに付属の戸の錠は施錠できること。
- f) シャッターは円滑に開閉できること。

#### 1.2 安全性の確保

##### 1.2.1 機械的な抵抗力及び安定性の確保

ガレージの全体及び各部分が、自重、積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力及び衝撃に対して、所定の構造安全性が確保されていること。

##### 1.2.2 使用時の安全性及び保安性の確保

- a) 人体、衣服等が直接触れる部分には、バリ、メクレ、危険な突起物がないこと。
- b) 戸は、内側から施錠が解除できること。
- c) 電動式シャッターの開閉性能は JIS A 4704「軽量シャッター構成部材」に適合していること。

##### (1.2.3 健康上の安全性の確保)

##### 1.2.4 火災に対する安全性の確保

ガレージは、燃えにくく材料を使用すること。

#### 1.3 耐久性の確保

##### a) 部材の耐久性

ガレージの主要部材、主要部材の表面処理及び主要部材の塗膜は、所定の耐久性を有していること。

##### b) シャッターの開閉繰り返し耐久性

シャッターを有するガレージのシャッターは、開閉繰り返しに対して所定の耐久性を有すること。

#### 1.4 環境に対する配慮（この要求事項は、必須要求事項ではなく任意選択事項である）

#### 1.4.1 製造場の活動における環境配慮

本項目を認定の対象とする場合は、製造場における活動が環境に配慮されたものであること。

#### 1.4.2 ガレージのライフサイクルの各段階における環境配慮

本項目を認定の対象とする場合は、次の項目に適合すること。

##### 1.4.2.1 材料の調達時等における環境配慮

環境負荷の低減に資する材料が調達され、又は環境負荷の低減に資するように配慮して材料が生産・製造されているなど、材料の調達時等における環境配慮の取組みの内容を認定の対象とする場合は、その内容を明確にすること。

##### 1.4.2.2 製造・流通時における環境配慮

製造及び出荷の際並びに流通させる際に、省エネルギー化を図るなど、製造・流通時における環境配慮の取組み内容を認定の対象とする場合は、その内容を明確にすること。

##### 1.4.2.3 施工時における環境配慮

施工する際に、環境負荷が増大しない方法で施工できるよう配慮するなど、施工時における環境配慮の取組みの内容を認定の対象とする場合は、その内容を明確にすること。

##### 1.4.2.4 使用時における環境配慮

使用する際に、省エネルギー化、低騒音化、汚染物質の排出抑制が図られるよう配慮するなど、使用時における環境配慮の取組みの内容を認定の対象とする場合は、その内容を明確にすること。

##### 1.4.2.5 更新・取外し時における環境配慮

更新する際に、互換性を確保すること等により、更新を行う施工者が適切かつ簡便に更新できるよう配慮し、取外しの際、環境負荷が増大しない方法で取外しができるよう配慮するなど、更新・取外し時における環境配慮の取組みの内容を認定の対象とする場合は、その内容を明確にすること。

##### 1.4.2.6 処理・処分時における環境配慮

適切にリサイクルや廃棄ができるよう配慮するなど、処理・処分時における環境配慮の取組みの内容を認定の対象とする場合は、その内容を明確にすること。

## 2 供給者の供給体制等に係る要求事項

### 2.1 適切な品質管理の実施

ISO9001、JIS Q 9001 又は同等の品質マネジメントシステムにより生産管理されていること。

### 2.2 適切な供給体制及び維持管理体制等の確保

#### 2.2.1 適切な品質保証の実施

##### a) 保証書等の図書

無償修理保証の対象及び期間を明記した保証書又はその他の図書を有すること。

##### b) 無償修理保証の対象及び期間

無償修理保証の対象及び期間は、部品を構成する部分又は機能に係る瑕疵（施工の瑕疵を含む。）に応じ、次の年数以上でメーカーの定める年数とすること。ただし、免責事項として次に定める事項に係る修理は、無償修理保証の対象から除くことができるものとする。



- 1) ガレージの部分又は機能に係る瑕疵 5年
- 2) 塗装の剥げ・錆び等、軟弱地盤による本体の傾き、電動シャッターを構成する部分又は機能に係る瑕疵 2年

#### <免責事項>

- 1 本基準の適用範囲以外で使用した場合の不具合
- 2 ユーザーが適切な使用、維持管理を行わなかったことに起因する不具合
- 3 メーカーが定める施工説明書等を逸脱した施工に起因する不具合
- 4 メーカーが認めた者以外の者による住宅部品の設置後の移動・分解などに起因する不具合
- 5 建築躯体の変形など住宅部品本体以外の不具合に起因する当該住宅部品の不具合、塗装の色あせ等の経年変化または使用に伴う摩耗等により生じる外観上の現象
- 6 海岸付近、温泉地などの地域における腐食性の空気環境に起因する不具合
- 7 ねずみ、昆虫等の動物の行為に起因する不具合
- 8 火災・爆発等事故、落雷・地震・噴火・洪水・津波等天変地異または戦争・暴動等破壊行為による不具合

### 2.2.2 確実な供給体制の確保

製造等についての責任体制及び確実な供給のために必要な流通販売体制が整備・運用されていること。

### 2.2.3 適切な維持管理への配慮

#### 2.2.3.1 維持管理のしやすさへの配慮

使用者、維持管理者等による維持管理がしやすく、製品や取替えパーツの交換作業が行いやすい製品であること。

#### 2.2.3.2 補修及び取替えへの配慮

- a) 構成部品において、取替えパーツについて明確にしていること。
- b) 主要な構成部品について、設計耐用年数及びその前提を明確にしていること。
- c) 取替えパーツの部品名、形状、取替え方法等が示された図書が整備されていること。また、取替えパーツのうち、消耗品については、交換頻度を明らかにすること。
- d) 住宅部品の生産中止後においても、取替えパーツの供給可能な期間を10年以上としていること。

### 2.2.4 確実な維持管理体制の整備

#### 2.2.4.1 相談窓口の整備

- a) 消費者相談窓口を明確にし、その機能が確保されていること。
- b) 消費者相談窓口やメンテナンスサービスの担当者に対して、教育訓練を実施していること。

#### 2.2.4.2 維持管理の体制の構築等

維持管理の体制が構築されているとともに、その内容を明確にしていること。

#### 2.2.4.3 維持管理の実施状況に係る情報の管理

維持管理の実施状況等について、適切に情報を管理できるようになっていること。

## 2.3 適切な製品選択方法及び基礎設計方法の設定

適切な製品選択方法及び基礎設計方法が設定されていること。

## 2.4 適切な施工の担保

### 2.4.1 適切なインターフェイスの設定

基礎とのインターフェイスが適切であること。

### 2.4.2 適切な施工方法・納まり等の確保

適切な施工方法・納まり等が明確になっているとともに、施工上の禁止事項、注意事項が適切に定められていること。

## 3 情報の提供に係る要求事項

### 3.1 基本性能に関する情報提供

機能性、安全性、耐久性、環境負荷低減等の部品に関する基本的な事項についての情報等が、わかりやすく表現され、かつ、カタログその他の図書及びホームページにより、提供されること。

### 3.2 使用に関する情報提供

使用についての情報をわかりやすく記載した取扱説明書、及び保証書が所有者に提供されること。

### 3.3 維持管理に関する情報提供

維持管理に関する情報が、わかりやすく表現され、かつ、カタログその他の図書及びホームページにより、維持管理者等に提供されること。

### 3.4 施工に関する情報提供

ガレージの施工について、わかりやすく表現されている施工説明書により、施工者に提供されること。

## Ⅲ. 附則

1. この認定基準（ガレージ BLS GA：2015②）は、2016年1月15日から施行する。
2. この認定基準の施行に伴い、改正前の認定基準（ガレージ BLS GA：2015）は廃止する。
3. この認定基準の施行の日に、既に改正前の認定基準に従って認定又は変更の準備を行っていた者については、この認定基準の施行の日から3か月を超えない日までは、改正後の認定基準を適用しないものとする。
4. この認定基準の施行の日以前に既に改正前の認定基準に従って優良住宅部品認定規程第16条第1項の認定を受けており（3.により施行の日以後に改正前の認定基準を適用して認定を受けた場合を含む。）、かつ、認定が維持されている優良住宅部品に係る認定基準は、優良住宅部品認定規程第28条第1項の期間内においては、改正前の当該認定基準を適用する。

# 「優良住宅部品認定基準（ガレージ）」の 解 説

この解説は、「優良住宅部品認定基準（ガレージ）」の改正内容等を補足的に説明するものである。

## I 今回の改正内容

1. 引用 JIS 規格年度の更新

## II 基準改正の履歴

### 【2016年1月15日公表・施行】

1. 電動式シャッターの開閉性能の記述構成の変更 [II.1.2.2.]

### 【2013年4月30日公表・施行】

1. 引用 JIS 規格年度の更新

### 【2012年2月29日公表・施行】

1. 適用範囲の明確化
2. 構造安全性の確保にかかる基準の見直し
3. 無償修理保証の対象及び期間に係る改正

### 【2010年3月19日公表・施行】

1. 適用範囲の拡大

### 【2009年12月21日公表・施行】

1. 構成部品の変更
2. 電動式シャッターの認定対象の追加
3. シャッターに関する要求性能を追加
4. 機械的な抵抗力及び安定性の確保の改正
5. 耐積雪荷重及び耐風圧力の評価の追加
6. 「適切な施工の担保」及び情報提供の変更

### 【2009年3月31日公表・施行】

1. 安全に係る要求項目の評価の第三者性の確保

### 【2008年10月1日公表・施行 一部追記】

1. 附則の追記

### 【2006年10月16日公表・施行】

1. 認定基準の性能規定化と充実
  - 1) 環境に対する配慮の項目（選択）の追加【II.1.4】
  - 2) 供給者の供給体制等に係る要求事項及び情報の提供に係る要求事項の充実

2. 評価基準の制定
3. 様式の変更等
4. <参考>資料の記載位置の変更

**【2006年9月9日公表・12月1日施行】**

1. 施工方法の明確化等の変更

**【2002年3月28日公表・6月28日施行】**

1. シャッターの開閉操作力試験及び開閉繰り返し耐久性試験の追加

**【2000年10月31日公表・施行】**

1. 優良住宅部品の保証制度の拡充に伴う変更

**【1999年8月20日公表・施行】**

1. 作寸法許容差の規定の変更